

圧倒的才能が放つ、小説の豊穣。
流麗な文体が、まばゆく、静かに、あまく香る。
驚嘆すべき [未到の文学] の誕生！

しあわせだったころしたように 佐々木 中

この終わる夏、いつも繰り返されてきたように、
遺された品をみる。それを読む。今度はこの
唐変木の番だ。^{むご} 悲い。これは酷いよ、
姉さん。だが、続けないわけにはいかない。